［別紙①］

デートDVセミナー

1　ねらい

中学２年生になり、交友関係が広がり異性や恋愛への興味が急速に高まる時期であり、学年内でもそれらにまつわる会話が聞こえてくる現状にある。

このようなタイミングでデート DV について学ぶことで、以下の「①暴力の定義を正しく理解し、②対等な人間関係の在り方を知り、③対処方法と相談先を知る」ことを目的にセミナーを実施する。

①　暴力の定義を正しく理解する

殴る・蹴るといった身体的暴力だけでなく、暴言、無視、スマホのチェック（束縛）、過度な要求などが「暴力」にあたることを学び、加害者にも被害者にもならないための土台をつくる。

②　対等な人間関係の在り方を知る

相手を自分の思い通りにコントロールしようとするのではなく、お互いの意思を尊重し、対等に話し合える関係が「健康な交際」であることを理解する。

③　対処方法と相談先を知る

自分や友人が当事者になったとき、一人で抱え込まずに信頼できる大人や専門機関に助けを求めるスキルを身に付ける。

2　概要

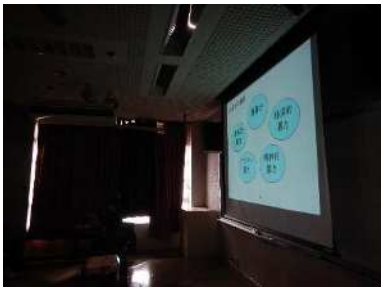
①　暴力の定義を正しく理解する

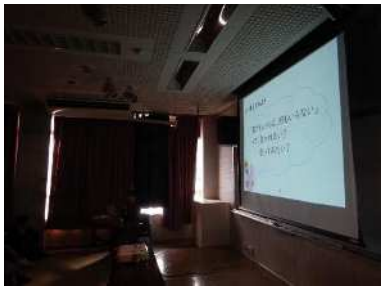
まず、５種類のDV・暴力について説明を聞いた。５種類の暴力とは、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、デジタル（社会的）暴力である。

次に、漫画やアニメ、歌謡曲の歌詞などでよく使用される「君さえいれば、何もいらない」というフレーズを「言われたいか？」「言われてみたいか？」という問いかけについて考えた。この言葉自体も「相手を束縛する言葉」になり、DV の可能性を秘めたものであるという講師の言葉に、生徒たちは新鮮な反応を示し、身のまわりで当たり前のように使われている言葉も「暴力性」をもち得ることに気付いた様子であった。

生徒たちは今まで「暴力」について正確に学ぶ経験がなかったようであり、ワークシートなどでは「暴力について知れてよかった」などの反応があった。

暴力についての学習のようす





②　対等な人間関係

対等な人間関係を構築する上で、①尊重（相手を自分の所有物ではなく、自分とは違う考えや感情をもつ一人の人間として認めること）、②境界（「ここからは自分の領域、ここからは相手の領域」という線引きがはっきりしていること）、③対話（嫌なことは「嫌だ」と言え、困ったときは話し合って解決策を探せる状態であること）、④自立（相手に寄りかかりすぎず、自分の足で立っていること）、の４点が大切であり、これらに基づいたロールプレイングを行った。

まず、尊重のない会話を２パターン演じ、その後、尊重のある会話とはどのようなものか、“I　メッセージ”について学んだ。その“I　メッセージ”をもとに、尊重のある会話を演じ、対等な人間関係を構築するうえでの望ましいコミュニケーションについて学んだ。

ロールプレイングのようす

尊重がない会話（コーヒー編）

尊重がない会話（デート編）

尊重のある会話（デート編）

③　対処方法と相談先を知る

最後に、中学生としてDV被害にあった場合の対処方法、例えば、ひとりで抱えないことや、信頼できる大人に相談することなどを知った。さらに、大人になっても社会には DV 被害者を支えるしくみがあり、万が一被害にあった場合の相談機関などを知ることができた。

生徒たちのワークシートから

①　セミナーを通して学んだこと

デートDVとはとても怖いもので身近で起きているということ

今回 知った事は、経済的ぼう力で、女子が男子に高いバッグとかせいきゅうするのもデートDVに当てはまるということです。
男子がおごらされるのは、ネットとかでよく聞くので、デートDVに当てはまると聞いておどろきました。

DVの暴力には5種類あることが分かった

「あの人には暴力をしてもいい」を思っているのが暴力の原因ということが分かった

お互いのことを尊重し合うことで、人との良い関係性を作れるということ。

「束ばくされる＝愛されている」ではない。
対等な関係でけんぜんな付きあい方が大事。
友達に相談されたら、味方になって親身に話を聞く。

DVが身近にあるという怖さ。
暴力にもいろいろな形があること

②　今後どのようにしてまわりの人と接するか

ちゃんと話を聞いて話して、向き合う。

身の回りにデートDVなどで困っている人や悩んでいる人がいたら少しでも話を聞いてあげたい

相手のことを否定せずに、お互い好きなものは好きだよねと、対等な関係を作りたい。

常に相手への尊重を持って接したい

相手のことも自分のことも尊重して接すること
対等に接する

相手の意見を尊重し接していこうと思いました。
相手を思いやって大切にしようと思いました。

③　感想

デートDVとはどのようなものかを
知らなかったけど5人に1人も経験していることを知って
とてもびっくりしました。もしそのようなことが起きたときは
誰かに助けを求めることが大切だと知ることができました。

DVだけに限らず、友達関係などにも
通じる話だったので、これからも、お互いに気を
使えるような関係を維持していきたいなと
思いました。

これからは自分にも関係があると思って
しんちょうに付き合ったりする。

小さいことでもDVのきっかけになったり、
デートDVになってしまうことがあるから、
しっかりいろいろしすぎないこととかに気を付けていきたい。

デートDVでの暴力は身体的な暴力
以外だけでなく精神的な暴力とかいろいろ
な暴力があるんだというのを知った。これからも
まわりの人とは対等な関係で接していきたい。

はじめは、デートDVってなんだろうと
思ったけど、ぼうりょくはしてはいけない。している人が
いるなら注意する。よくないと教えるなど、今回お話を
きいて、もし自分がデートDVにあってしまったら今日のことを
意識したいと思います。

3　成果と今後の課題

今まで「暴力」について学ぶ場面はそう多くなかったものと考えられるので、今回のセミナーを通して、デート DV に留まらず「暴力」というものについて学ぶことができたと考えられる。また、男女共同参画社会について理解を深める中で、自分のまわりにいるすべての人と対等な関係を築くことの大切さに気付くことができた。さらに、デート DV の被害者は女性の割合の方が高いこともあり、女性の人権とデート DV とは結びつけて考えられることが多いが、男性が被害者になることもあることを知るなど、今まで獲得してきた視野や考え方を、より広げることができた。

今後の課題は、このセミナーを通して身に付けた知見を、実際の生活で活用できるかどうか、また日々の生活の中で対等な人間関係を構築できるかどうかといった実践力に結び付けることである。

［別紙②］

生徒の質問に対してのトレピエからの回答

2026.1.15 実施 尼崎市立小田北中学校

デート DV 出前授業 Q&A

先日の講演のアンケートに答えていただき、ありがとうございました。みなさんの「もっと知りたかったことや聞きたかったこと」に対してお答えします。（※加害者…B さん　被害者…☆さん）

Q.1	**・友達同士でも DV はありますか。**
	➡ＤＶは結婚している相手からの暴力、デートＤＶは結婚していない交際相手からの暴力を意味します。友達の間で起こる暴力はいじめです。
Q.2	**・伝えにくい時はどうしたらいいですか。**
	➡うまく伝わらなかったらと思うと勇気がいりますよね。でも、このことは OK、こうされることは嫌だ、と自分の気持ちを素直にＩメッセージで伝えてください。また伝える時に、相手を責める、非難する言い方ではなくて、「〇〇してくれるとうれしい」というようにプラスの話し方はすてきですね。健全なコミュニケーションは、お互いを大切に思いやることで成立します。お互いを尊重しあえれば、気持ちは必ず伝わります。もし不安だったら、共通の信頼できる友達がいるところで、話しましょう。
Q.3	**・相手が DV だと思ったら、それは DV ですか。** **・他にもいろいろやってはいけないことってありますか。** **・実際あったそういう事件って例えばどんな事例がありますか。**
	➡・ある行為によって、被害を受けた側の心や体が傷つけられたり、恐怖心が与えられたりすれば、その時点でその行為は暴力と言えます。それがカップル間で起きた時が「デート DV」です。相手の意見を必ず聞き、同意を得る、といった尊重する態度と行動がない交際で DV は起きやすくなります。また、暴力の後は謝ってくることが多いので、今度こそ相手が変わってくれるかもと期待し、許してしまうので暴力は繰り返されます。 ・実際に中学生が逮捕された事件があります。犯罪成立の基準年齢は 14 歳であることから、14 歳以上であれば、中学生であっても逮捕される可能性があります。また性犯罪は、16 歳未満の子どもに対して、性交等やわいせつな行為をすると「不同意性交等罪」や「不同意わいせつ罪」として処罰されます。※
Q.4	**・DV していた人が普通の性格にもどった人はどれくらいですか。またどのようにして DV を無くすことができましたか。**
	➡性格を直すというより考え方を変えるために、加害者更生プログラムを受講したり、夫婦でカウセリングを受けて DV をしないように頑張る人もいますが、詳しいデータはありません。暴力の選択は間違っている、束縛や支配するという考え方に囚われていることを認めることが、大人になるほど難しくなるため、あらゆる面で成長期の若い世代や学生に啓発していくことが重要になってきます。